

年度末、そして帰国

中国北部に位置するここ山西省も暖かい季節となった。山西大学のある太原市は、日本の関東と比べて平均的に寒い気候で冬は何もかも凍るほどだが、年間を通しての温度差が激しいため、夏もそれなりに暑くなる。最も寒い1月はマイナス20度以下まで下がることもあるが、最も暑い7月の場合日中は30度ぐらいまで気温が上がるという。ただし太原は常に湿度が低く乾燥している時期が多いため、夏の暑い時でも過ごしやすく感じられた。しかし冬季に比べて雨が多いため、雨の後などは急に湿気が出てかなり蒸し暑いということもあった。

さて山西大学では、後期も終わりに近づく学年末で、学生たちは期末テストの対策に励むようになる。大学キャンパス内にある全学部が利用する図書館は、前期の学期末以上に試験対策やレポートや研究に専念する学生たちで込み合う時期だ。留学生向けの中国語の定期試験も一般の学生とほぼ同じ時期に実施される。また、年度末になると早くも次の学年に学ぶ予定の留学生がぼちぼちあらわれはじめる。

帰国を間近にひかえた私は、まだふれていない山西省の文化を少し見てまわった。まず、市内の関帝廟を訪れた。関帝廟とは、関帝などを祀る神殿だ。関帝は、山西省の歴史的に有名な武将である関羽がのちに神格化され、神として崇拝されるようになったもの。関帝廟の関係者からその歴史や宗教性について話を聞くことができた。関帝廟は現在、山西省はもちろんのこと、中国国内のみならず日本を含む世界各地に存在している。出身地域に関帝廟があるというある留学生は、そこで関帝の像をいくつか購入していった。



上党八音会の公演

また、山西省固有の伝統的な民族楽器アンサンブルである、上党八音会の無料公演が市内であった。上党八音会は、中国国家級非物質文化遺産に指定されている。時に動き回りながらの迫力ある演奏からは、山西省独特の文化が感じられた。



空港付近の様子

今回の帰国時、私は上海経由で行くことにした。太原市からは直通電車が通っており、長距離にもかかわらず普通の夜行電車で14時間かからない程度という意外と短時間でつくのだ。やはり太原から行くと上海は蒸し暑く感じられた。上海は山西省に比べて人々の生活のリズムが速く、また北方と南方という違いもあり、同じ中国といえども山西省とはかなり異なった雰囲気を感じられた。

杉浦聡太